



露地夏秋キュウリに発生する褐斑病の リスク要因分析

岩手県病害虫防除所 **ねこ** **づか** **しゅう** **いち**
猫 **塚** **修** **一**

はじめに

岩手県におけるキュウリの生産は、平成29年度は作付面積225ha、産出額28億円であり、トマトに次ぐ本県野菜の主力品目である。作型は露地夏秋獲りであり、7～9月にかけて収穫される。本県のキュウリ栽培において、近年最も被害が多い病害として褐斑病（病原：*Corynespora cassiicola*）が挙げられる。本病は、葉に褐色・不整形の病斑を多数生じ、収穫後期の草勢の衰えとあいまって早期枯れ上がりの原因ともなる（図-1）。第一次伝染源は前年の被害残渣、第二次伝染源は罹病葉上に形成された分生子である。発生の特徴は、流行初期では圃場内の数株に見られるが、その後のまん延が急激で、流行盛期になると圃場全体に拡大する。

岩手県内の一般圃場では例年、梅雨明け後の8月前半ころに初発生が見られ、8月後半～9月前半にかけて発生量が増加する（図-2）。本病の防除は、まん延後の薬剤散布では間に合わないため、初発時期に合わせた予防散布が実施されているが、年によって初発時期が早まり防除適期を逃すことがある。本病の発生生態や多発要因については、施設栽培では知見があるものの（挾間、

1993；宮本ら，2007），露地栽培では乏しい。本病の感染・発病は温度や葉面濡れ時間の影響を受けるため（挾間，1993），露地栽培では伝染源量や気象条件の影響を強く受けることが予想される。そのため、岩手県病害虫防除所では巡回調査を実施し発生予察を行っているが、その調査結果から以降の長期的な発生動向を予測するには至っていない。

筆者はこれまで、リンゴに発生する数種の病害につい



図-1 キュウリ褐斑病の病徴

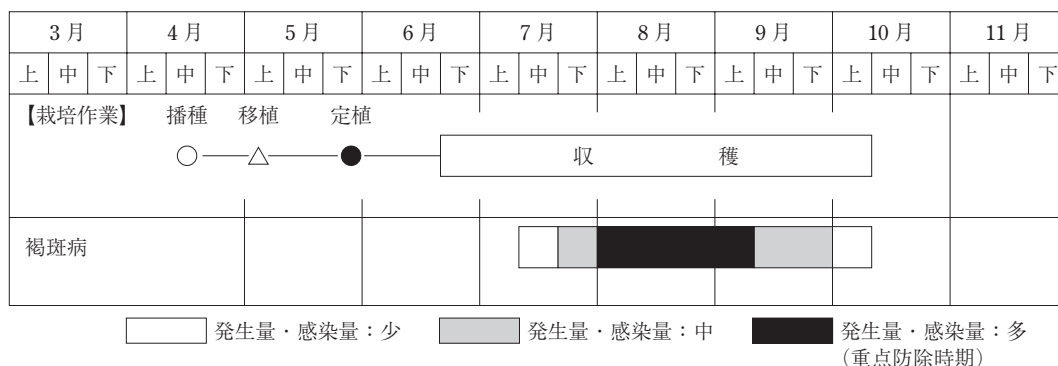


図-2 岩手県の露地夏秋キュウリの作型と褐斑病の発生パターン

Risk Factor Analysis for Incidence of *Corynespora* Leaf Spot on Summer-Autumn Harvest Cucumber on Open Field. By Syuuichi NEKODUKA

(キーワード：疫学，オッズ比，発生予察，ピックデータ，ロジスティック回帰)